

講演会「アイヌの知恵と生きる力」

スピーカー：古布絵作家 宇梶 静江さん

図は宇梶静江さんの代表的著作で、吉川英治文化賞を受賞された『すべてを明日の糧として』（清流出版、2001）の表紙です。北海道の先住民であるアイヌの人々は、明治32年に制定された「北海道旧土人保護法」のもとで、同化の名目でサケやシカを採ることも、学校でアイヌ語を習うことも禁止され、ひどい貧困と差別に悩まされました。この本は、アイヌの漁民の子として生まれた聡明で感受性の強い女の子・静江さんが、耐え難いほどの困難の中でも家族や隣人への信頼と愛情、それにアイヌ民族の誇りに支えられて前向きに生きた記録です。自然を愛し、フクロウやサケを題材にし詩作し絵本をつくる芸術家でもある静江さんの自然で生き生きとした文体は、読者の感動と共感を誘います。

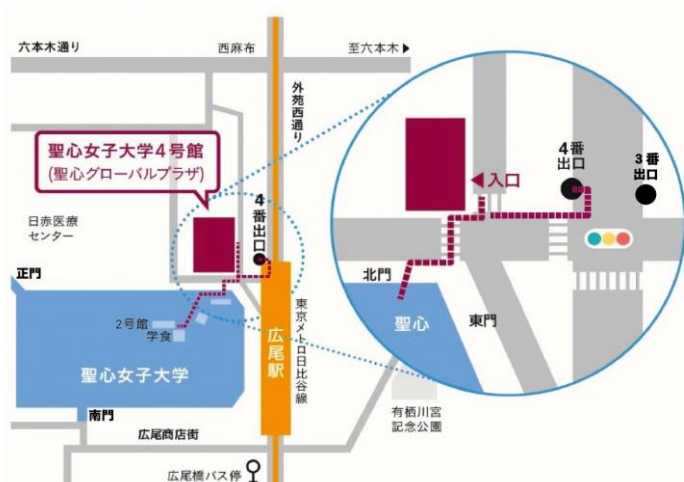


今回の講演では、静江さんの歩んでこられた驚くべき道のり、生きる力を支えたアイヌ民族の知恵、そして、今後のご計画について伺います。（文責：尾本）

演者プロフィール

昭和8年（1933）北海道浦河町で漁民の子として生まれる。幼少時から家族の生活を助け、苦学して20才で中学に入学した。卒業後は東京に出たが就職もままならず、一時はアイヌであることを捨てる気で和人と結婚する。しかし、出自を隠すアイヌの仲間を見て、昭和47年（1972）カミングアウトする決心を固め朝日新聞に「ウタリたちよ手をつなごう」という記事を投稿し、東京ウタリ会を設立。以後は詩作や古布絵・絵本作家としてアイヌ文化の継承に務めると共に首都圏のアイヌ住民の連絡と支援活動に徹している。俳優の宇梶剛士氏は息子。

日時：2018年6月23日（土）13：30～16：00（開場 13：00）



会場：聖心女子大学4号館 聖心グローバルプラザ BE*hive・ワークショップスペース
<http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/>
東京メトロ日比谷線広尾駅4番出口 徒歩2分

参加費：無料 お申込み：必要

お問い合わせ・お申込み方法

お申込み① (Google フォーム)
<https://goo.gl/forms/NoP8sxxgfbZ3uzl8i2>

または お申込み②
先住民族問題研究会（尾本恵市）
Eメール keiichi0637@gmail.com
電話/Fax 03-5469-0417



主催 先住民族問題研究会 後援 聖心女子大学グローバル共生研究所